

2019年度第3四半期決算

JT Group CFO 見浪 直博

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。
※用語の定義については、スライド18、19、20に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等

(このスライドは空白です)

全社 (実績)

第3四半期累計実績

為替一定調整後営業利益

- 国内たばこ・医薬は減少も、海外たばこの伸長が上回り成長

(億円)

調整後営業利益

- 為替の不利な影響により減益

営業利益・四半期利益

- 医薬の契約解消に係る一時金収入を、以下の減益要因が上回り減益
 - 不動産売却益の減少、買収にかかる償却費の増加、海外たばこの事業運営体制の変革にかかる施策関連費用の計上
 - 金融費用の増加

	2019年 1-9月	対前年
為替一定ベース		
調整後営業利益	5,262	+3.0%
財務報告ベース		
売上収益	16,337	▲2.5%
調整後営業利益	4,515	▲11.6%
営業利益	4,406	▲7.6%
四半期利益	3,161	▲5.0%

たばこ市場動向

たばこトータル

- たばこ総需要：対前年▲6%台後半
- 19年10月定価改定前に発生した駆け込み需要は限定的
 - 前年のたばこ税増税時と比べると、値上げ幅の違いにより駆け込み需要の規模が大幅に縮小

RMC*

- RMC総需要：対前年▲9%台前半
- ダウントレーディングは継続しているものの、想定範囲内

RRP

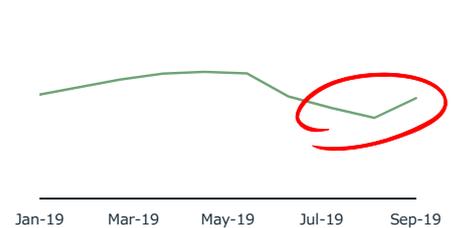
- RRP市場占有率：22%台半ば**
- RRP総需要は安定的に推移する中で、引き続き競争は熾烈

販売数量実績

RMC

- 販売数量は総需要影響とシェア減により、対前年▲10.5%
 - JT RMCカテゴリー内シェア：60.7%（対前年：▲0.8ppt）
- お客様によるダウントレーディングの動向に迅速に対応

JT RMCカテゴリー内シェア（出荷ベース）



RRP

- 新製品の上市・拡販に伴い、RRP販売数量は対前年+5億本
 - JT RRPカテゴリー内シェア（累計）：約9%
 - 7-9月期：約10%（対前四半期：約+2ppt）
- 高温加熱カテゴリーにおける競争は一層激化

JT RRPカテゴリー内シェア（実需ベース）



直近の取り組み

リトルシガー製品発売

- 9月中旬より、わかば・シガー（360円）およびエコー・シガー（350円）を全国発売
- 12月にはキャメルのリトルシガーを発売予定（各360円）



© Copyright JT 2019

※このページは投資家の皆様にJTの国内たばこ事業の内容を説明する目的で作成されたものです。消費者への販売促進もしくは喫煙を促す目的ではありません

Ploom TECH+の新SKU発売

- 11月1日より、全国のコンビニエンスストアで4SKUを新発売（各500円）

メビウス・ゴールド



加熱式たばこの煙（蒸気）は、周りの人の健康への悪影響が否定できません。健康増進法で禁じられている場所では喫煙できません。Tobacco Free Zoneの設置が喫煙者以外の喫煙者にも影響を及ぼす場合があります。

フレーバーライン



望まない受動喫煙が生じないよう、屋外や家庭でも周囲の状況に配慮することが、健康増進法上、義務付けられています。Tobacco Free Zoneの設置が喫煙者以外の喫煙者にも影響を及ぼす場合があります。



望まない受動喫煙が生じないよう、屋外や家庭でも周囲の状況に配慮することが、健康増進法上、義務付けられています。Tobacco Free Zoneの設置が喫煙者以外の喫煙者にも影響を及ぼす場合があります。

7

財務実績

AOP要因分析

【プラス要因】

- RMCのプライシング効果
- RRPの販売数量増加

【マイナス要因】

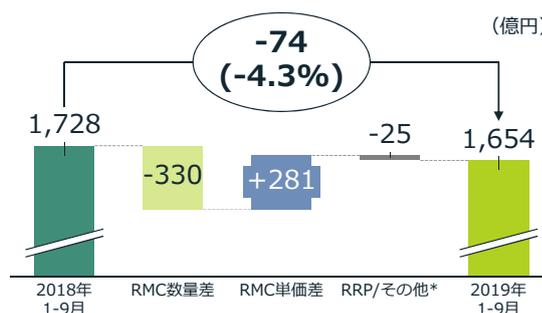
- RMCの大幅な販売数量減
 - 趨勢減、RRP市場拡大影響、18年定価改定影響
 - 駆け込み需要規模の縮小
- RRPデバイス・アクセサリ販売減

© Copyright JT 2019

（億円）

	2019年 1-9月	対前年
自社たばこ製品 売上収益	4,358	▲1.9%
調整後営業利益	1,654	▲4.3%

調整後営業利益

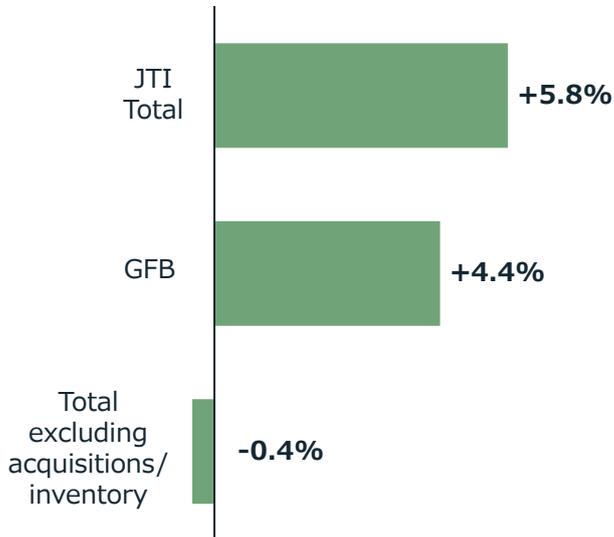


*製造コスト、販売費、一般管理費を含む

8

販売数量実績

1-9月総販売数量 対前年成長率



© Copyright JT 2019

数量モメンタム継続

紙巻たばこ

- バングラデシュ・ロシアにおける買収効果
- 欧州*およびGFBのシェア増に伴い、買収および在庫調整除きでも堅調な実績

RRP

- Logic Compactを17市場**で展開
- 2019年8月に申請したLogic製品に係るPMTAを米国FDAが受理

*N&CEクラスターおよびS&WEクラスター **9月末時点

9

財務実績（為替一定ベース）

AOP要因分析

- プライシング効果が多数の市場で発現
- M&A市場やRRPを中心に事業投資は継続

（百万ドル）

為替一定ベース	2019年 1-9月	対前年
自社たばこ製品 売上収益	9,471	+8.9%
調整後営業利益	3,384	+10.2%

調整後営業利益（為替一定ベース）

（百万ドル）



*製造コスト、販売費、一般管理費を含む

10

© Copyright JT 2019

財務実績（財務報告ベース）

（億円）

AOP要因分析

- 為替影響が事業モメンタムを上回る
 - 主にIRR、RUBの下落が影響
 - 加えて、ドル円が不利に作用

財務報告ベース	2019年 1-9月	対前年
自社たばこ製品 売上収益	9,416	▲1.2%
調整後営業利益	2,965	▲12.0%

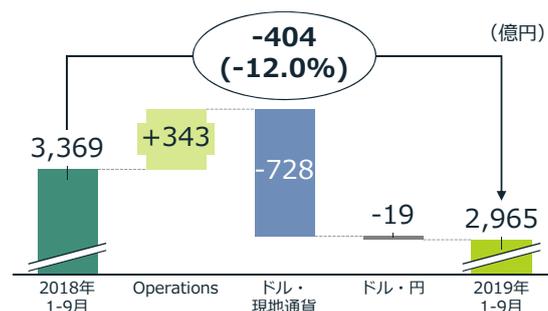
為替レート変化率 対前年同期

	2018年 1-9月	2019年 1-9月	変化率
USD/EUR	0.84	0.89	5.9%安
USD/GBP	0.74	0.79	5.8%安
USD/IRR	53,867	102,297	47.3%安
USD/RUB	61.41	65.08	5.6%安
USD/TRY	4.60	5.63	18.4%安
USD/JPY	109.60	109.12	0.4%高

EUR/IRR換算から、表のUSD/IRRを算出

© Copyright JT 2019

調整後営業利益（財務報告ベース）



11

財務実績

医薬事業

- 国内での抗HIV薬ライセンス契約解消の影響および海外ロイヤリティ収入の減少等により、売上収益・調整後営業利益ともに減少

加工食品事業

- 売上収益は、ステープル商品の販売は伸長したものの、その他商品の販売減少により減収
- 調整後営業利益は、価格改定効果に加え、商品構成の改善およびコスト低減等により増益

（億円）

	2019年 1-9月	対前年
売上収益	633	▲184
調整後営業利益	78	▲115

（億円）

	2019年 1-9月	対前年
売上収益	1,148	▲24
調整後営業利益	29	+8

© Copyright JT 2019

12

全社修正見込

為替一定/財務報告調整後営業利益：国内たばこの下方修正を反映も、全社では概ね前回見込水準を維持

営業利益：不動産売却益の上振れ等を見込むも、海外たばこの事業運営体制の変革に係る施策関連費用の計上を主因に下方修正

当期利益：営業利益の下方修正に加え、見積実効税率の一時的な上昇により下方修正。一方、FCFについては引き続き安定的な創出を見込む

(億円)

国内たばこ事業
<ul style="list-style-type: none"> 自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益を下方修正 <ul style="list-style-type: none"> RRP販売数量の見直しが要因
海外たばこ事業
<ul style="list-style-type: none"> 為替一定/財務報告自社たばこ製品売上収益を上方修正 調整後営業利益は変更なし
医薬事業・加工食品事業
<ul style="list-style-type: none"> 医薬：売上収益・調整後営業利益を上方修正 加工食品：売上収益を下方修正・調整後営業利益は変更無し

© Copyright JT 2019

	2019年 修正見込	対前回 見込増減	対前年
為替一定ベース			
調整後営業利益	6,050	▲50	+1.6%
財務報告ベース			
売上収益	21,700	-	▲2.1%
調整後営業利益	5,180	▲50	▲13.0%
営業利益	5,050	▲130	▲10.6%
当期利益	3,400	▲200	▲11.8%
FCF	3,700	+100	+2,644億円

13

国内たばこ事業 修正見込

数量前提
<ul style="list-style-type: none"> JT RRP販売数量：40億本→33億本 <ul style="list-style-type: none"> Ploom S販売数量引き下げ <ul style="list-style-type: none"> 高温加熱カテゴリーにおける競争激化 トライアル・定着率ともに想定を下回る JT RMC販売数量：対前年約▲8%→▲7%台半ば <ul style="list-style-type: none"> 7-9月期のRMC総需要実績を反映 引き続きシェアの回復を目指す

© Copyright JT 2019

財務
<ul style="list-style-type: none"> 自社たばこ製品売上収益：5,800億円→5,700億円 調整後営業利益：2,000億円→1,940億円 <ul style="list-style-type: none"> トップライン修正を反映 コストの見直しは行方一方、中長期の成長を企図した販促投資は引き続き執行
来期以降
<ul style="list-style-type: none"> 短期的な業績のターンアラウンドは困難 <ul style="list-style-type: none"> シェア・数量の最大化を目指す まずはリフィルのラインアップを着実に拡充 <ul style="list-style-type: none"> よりお客様のニーズに合致したデバイスのアップグレードにも取り組む

14

海外たばこ事業 修正見込

修正見込

- 総販売数量：対前年約+5%→約+4%
- 為替一定自社たばこ製品売上収益：12,250百万ドル→12,320百万ドル
 - 追加的なプライシング効果を主因に、自社たばこ製品売上収益を上方修正
- 為替一定/財務報告調整後営業利益：修正なし
 - 自社たばこ製品売上収益の上振れに伴う利益は、来期以降の成長に繋がる追加的投資へ充当

Transformation

たばこ業界における非連続的な変化を先取りし、我々の組織としての強みを活かしながら、スピード、機動性、サービスの品質向上を図るとともに、個々人の力を最大限に引き出し、更なる成長への足がかりとする

課題認識

- 役割/責任設計が不明瞭、重複感あり
- 個別最適化された組織設計/構造
- 戦略的な資源配分に関する優先順位付けに改善の余地
- 複雑化した組織階層、縦割り主義の存在
- ビジネス・サービス・センターに更なる活用の余地

取り組み

- 個々および組織の役割と責任の明確化
- より速く、より効果的な課題解決のためのアジャイルな働き方の導入
- スパン・オブ・コントロールと組織階層の適正化
- 戦略の優先順位に紐づいた最適な人材配置
- 3つのグローバル・ビジネス・サービス・センター（GBS）の新設・拡大：
 - サンクトペテルブルク、マニラ、ワルシャワ

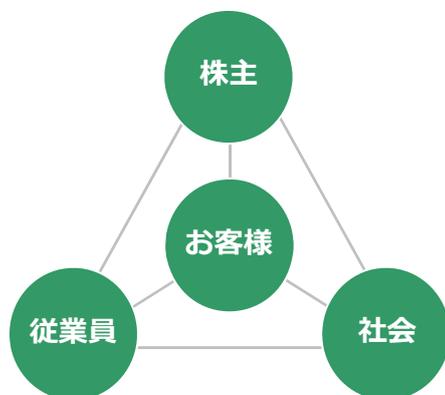
タイムライン

- | | |
|------|--|
| 2020 | <ul style="list-style-type: none"> • アジャイル・モデルの本社への導入 • GBSの立ち上げ |
| 2021 | <ul style="list-style-type: none"> • 注力市場におけるアジャイル・モデルの導入と更なる進化 |
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> • アジャイル・モデルと関連するスキルの継続的な向上 • GBSの本格稼働 |

財務影響

- 7-9月期に172百万ドルの事業運営体制の変革に係る施策関連費用を計上
- 2022年度の施策完了以降、年間のコスト削減効果は200百万ドル超の見込

Closing remarks



© Copyright JT 2019

当期について：

- 第3四半期累計実績：
 - 主に海外たばこ事業におけるプライシング効果により、為替一定AOPは成長
- 通期見込：
 - 国内たばこ事業の下方修正を反映も、全社では前回見込と同等の水準を維持しており、引き続き為替一定AOPでの成長を目指す
 - 年間配当金予想は一株当たり154円に変更なし

経営計画2020策定に向けて：

- 中長期に亘る持続的な利益成長を目指す方針に変更なし
 - 国内たばこ事業における、短期的な業績のターンアラウンドが困難な状況にある中、まずはシェア・数量の最大化に注力
- 厳しい状況ではあるものの、株主還元については、一株当たり配当金の維持・向上を重視

17

<用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定調整後営業利益：	海外たばこ事業における当期の調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドル、円対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
四半期利益・当期利益：	親会社の所有者に帰属する四半期利益・当期利益
FCF：	FCF = 営業活動CF + 投資活動CFただし以下の項目を除外 • 営業活動CFから、リース取引から生じる減価償却費、利息及び配当金の受取額とその税額影響、リース取引以外から生じる利息の支払額とその税額影響 • 投資活動CFから、事業投資以外に係る、投資の取得による支出、投資の売却及び償還による収入、定期預金の預入による支出、定期預金の払出による収入、その他

© Copyright JT 2019

18

<用語の定義>

GFB : (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド
総販売数量 : (海外たばこ事業)	水たばこ/Reduced-Risk Products/製造受託を除き、Fine Cut/Cigar/Pipe/Snus/Kretekを含む
自社たばこ製品売上収益 : (海外たばこ事業)	物流事業、製造受託等を除き、水たばこ、Reduced-Risk Productsの売上込み
為替一定ドルベース 自社たばこ製品売上収益/ 調整後営業利益 : (海外たばこ事業)	当期の自社たばこ製品売上収益/調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標

<用語の定義>

たばこ総需要 : (国内たばこ事業)	日本市場全体におけるたばこ製品の本数ベースの市場規模 (自社推計) RRPやリトルシガーを含む
RMC : (国内たばこ事業)	Ready made cigarettesの略
RMC総需要 : (国内たばこ事業)	日本市場全体における紙巻たばこの本数ベースの市場規模 (自社推計) リトルシガーを含み、RRPを含まない
RMC販売数量 : (国内たばこ事業)	国内免税販売中国事業の販売分を除く、JT紙巻たばこの販売本数 リトルシガーを含み、RRP等を含まない
RRP販売数量 : (国内たばこ事業)	国内免税販売分を除く、JTのRRPの販売本数 (1パック当たり紙巻たばこ20本として換算) デバイス/関連アクセサリー等は含まない
リトルシガー : (国内たばこ事業)	たばこ葉を原料とする巻紙を使い、紙巻たばこと同様の形態に巻き上げた製品。 たばこ事業法上「葉巻たばこ」に分類される
自社たばこ製品売上収益 : (国内たばこ事業)	輸入たばこ配送手数料収益等を除き、国内免税販売/中国事業/Reduced-Risk Products関連の売上を含む
RRP関連売上収益 : (国内たばこ事業)	国内たばこ事業における自社たばこ製品売上収益の内訳としての、デバイス/関連アクセサリー等を含む Reduced-Risk Productsの売上